

望みの丘 エリア別整備方針、管理目標（案）

※本資料はサンプルであり、今後パーククラブとの協議によって内容を決めるものです。

図面番号	エリア名	用途	整備方針	管理目標
A-1	〇〇の林	<ul style="list-style-type: none"> 望みの丘北端部から閑空方向への眺望を楽しむ。 ゆっくり休憩ではなく、立ち止まって眺める場所。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の山道は急峻なので迂回路を整備する。 数名が立ち止まって眺望できる場所を確保する。 眺望を阻害する法肩付近の中低木を間引く。 高木は枝打ちして眺望を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな竹、実生を伐採。 伸長する枝を適宜剪定。 迂回路の維持管理。
A-2	法すそ管理区	<ul style="list-style-type: none"> 園路から斜面林への緩衝帯。 竹の浸食防止ライン。 	<ul style="list-style-type: none"> 園路幅（約2m）の両端に竹の縁石を設置。 	<ul style="list-style-type: none"> 園路部分は除草する。 縁石より外側は、基本的に自然のまま。 新たな竹は伐採し、地被類やネザサは残す。
A-3	〇〇の斜面	<ul style="list-style-type: none"> 林間利用はさせない斜面 竹に浸食された斜面を、かつての樹林に戻す。 	<ul style="list-style-type: none"> 竹の伐採。 実生の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな竹の伐採。 長期的視点で経過観測。 どの樹種を残すかは、実生の成長を見て判断。
A-4	コウヤボウキ育成区	<ul style="list-style-type: none"> コウヤボウキの観察。 工作（玉簪）の材料に利用。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在群生しているコウヤボウキの育成。 立入防止柵、看板等の設置。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に自然管理。 雑草等の除去など。 株数調査、定点観測。
A-5	〇〇の雑木林	<ul style="list-style-type: none"> 谷口池側急斜面の保全林。 来園者の立入は禁止。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状維持 	<ul style="list-style-type: none"> 府が維持管理する。 枯れ木、危険枝の除去。 適宜間伐の実施。
A-6	クヌギ広場	<ul style="list-style-type: none"> 学習広場として活用。 クラフト教室などの利用を想定。 	<ul style="list-style-type: none"> クヌギを除き、竹や実生を伐採する。 切り株を覆うようにチップ材を敷設する。（府） 水はけの状況を確認し、必要に応じて排水施設を整備。（府） 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな竹、実生の伐採、除草。 チップの補充、排水施設の維持管理。（府）
A-7	〇〇の林	<ul style="list-style-type: none"> 林間利用はさせない。 頂上広場からの林間風景の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> 法肩付近の中低木を間引き、高木は枝打ちして眺望を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 頂上広場の遮蔽感がないように、適度な空間が維持できる間伐や枝打ちを行う。
A-8	かれ葉のプール	<ul style="list-style-type: none"> かれ池に落ち葉やチップ材を敷き詰めてプールにするなど、子供が遊べるエリア。 	<ul style="list-style-type: none"> 園内落ち葉かきの際に、落ち葉を集積する。 広場や園路からの昇り口をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち葉の入替え（年1回？） 安全面の管理。（府） 池の堤の保全⇒植生促進など。
A-9	頂上広場	<ul style="list-style-type: none"> 中地区の最高標高エリア。 1時間程度休憩できるスペース。 お弁当が広げることができるエリア。 	<ul style="list-style-type: none"> 幹の太い高木（調査済み）を残して、中低木を伐採。 丸太のベンチやテーブルを置く。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな竹、実生の伐採、除草。
A-10	〇〇の林	<ul style="list-style-type: none"> 林内立入可能。 頂上広場とあわせて、子供が遊べるエリア。（かくれんぼ、鬼ごっこなど） 	<ul style="list-style-type: none"> 中低木の伐採。 頂上広場より密度の高い樹林。 モチツツジの保存。 	<ul style="list-style-type: none"> 枯れ木、危険枝の除去。 新たな実生の伐採。 危険動物の除去。（府）
A-11	〇〇の林	<ul style="list-style-type: none"> 林間利用はさせない。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状維持 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな竹、実生の伐採。 コドロード法による植生調査の実施や定点観測。
A-12		<ul style="list-style-type: none"> 緩傾斜であるが、林間利用には適さない。 竹に浸食された斜面を、明るい林床に戻す。（落葉広葉樹林の再生） 	<ul style="list-style-type: none"> 現状維持 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな竹の浸食は防止し、実生は残す。 長期的視点で経過観測。 コドロード法による植生調査の実施や定点観測。 どの樹種を残すかは、実生の成長を見て判断。 モチツツジの保存。
A-13		<ul style="list-style-type: none"> 林間利用はさせない。 	<ul style="list-style-type: none"> 疎林部は現状維持。 散策路は1m程度の幅員で竹の縁石を設置。 急こう配部は間伐材による階段の設置。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな竹、実生の伐採。 コドロード法による植生調査の実施や定点観測。
A-14	〇〇の広場	<ul style="list-style-type: none"> イベントなどの集合場所。 人数によっては、活動場所など多目的に利用。 	<ul style="list-style-type: none"> 竹や実生の伐採。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな竹、実生の伐採、除草。
A-15	五右衛門風呂の辻	<ul style="list-style-type: none"> 全体は緩衝区ではあるが、五右衛門風呂を目印とした辻ポイントとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 五右衛門風呂がのぞけるようなアクセス。 説明サインの設置。（府） 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に自然管理。 雑草等の除去など。
A-16	〇〇の斜面	<ul style="list-style-type: none"> 林間利用はさせない斜面。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状維持 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな竹の伐採。
A-17	〇〇竹林緩衝区	<ul style="list-style-type: none"> 園路から竹林への緩衝帯。 竹の浸食防止ライン。 	<ul style="list-style-type: none"> 竹の伐採。 	<ul style="list-style-type: none"> 竹の伐採。 地被類やネザサは残す。
A-18	〇〇の竹林	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇の広場から見る竹林風景区。 反対側の広葉樹林との対象風景を創造する。 平坦地であるため、低年齢児や高齢者のタケノコ堀などに利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状維持 	<ul style="list-style-type: none"> 現状程度の密度で竹林を管理する。
A-19	〇〇の竹林	<ul style="list-style-type: none"> 望みの丘エントランス部の竹林区。 簡易インフォメーションの場所などに利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 竹林部は現状維持。 入口部の散策路は急こう配なので、間伐材等を利用して階段を設置。 案内板の設置。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状程度の密度で竹林を管理する。